

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	診療放射線技師学科(昼間部)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	医療人間学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	後期	教室名	第3校舎 901教室
担 当 教 員	小松 裕司	実務経験と その関連資格	患者心理や放射線被ばく相談の講演、指導実績 診療放射線技師、産業カウンセラー 学士(人間学)、日本放射線カウンセリング学会会長、JART放射線被ばく相談員初代分科会長			
《授業科目における学習内容》						
医療従事者は所持している資格に関する専門知識の向上のみならず、患者の心理状態を理解するための知識を学び、全人的な医療を実践することが望まれる。将来、診療放射線技師として従事する上で、患者と円滑なコミュニケーションを図るための知識や技能を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(70%) 出席点(20%) 平常点(10%) 授業への参加・貢献度、ミニッツペーパーの内容、授業態度を総合的に評価します。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
使用教材 授業で使用するPPT 参考図書 坪井康次『看護のための医学講座(医療人間学)』中山書店 2002年 日本医学教育学会倫理 行動科学小委員会(編)『人間学入門』南山堂 2009年						
《授業外における学習方法》						
傾聴などの講義内容を日常のコミュニケーションに取り入れる。						
《履修に当たっての留意点》						
講義の理解度確認のために、毎回授業終了前にミニッツペーパーを作成してもらい、学生と教員の双方向コミュニケーションが図れる授業を行います。また、グループワークは指示に従い、積極的に参加してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療現場で必要なコミュニケーションを理解し、実践できる。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる	
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション概要			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療現場で発生しているエイジズムを理解し、模範的な対応ができる。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる	
		各コマにおける授業予定	エイジズム			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者心理を理解し、患者個々人に合わせた柔軟性のある対応ができる。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる	
		各コマにおける授業予定	患者心理の理解とその対応について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	LGBTについて理解する。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる	
		各コマにおける授業予定	LGBT			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	診療放射線技師の業務を理解し、高い倫理観を養う。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる	
		各コマにおける授業予定	診療放射線技師業務における倫理			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	人々が放射線被ばくに不安を抱く要因について理解する。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる
		各コマにおける授業予定	放射線被ばくに対する心理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	放射線被ばくへの不安に対応するための放射線カウンセリングについて理解する。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる
		各コマにおける授業予定	放射線カウンセリング		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	演習を通して傾聴技法を理解する。	配布資料	学習した内容を日常のコミュニケーションに取り入れる
		各コマにおける授業予定	放射線カウンセリングに必要な傾聴技法		